

■杉山茂丸(其日庵)
すぎやましげまる
禁門の変・・・1864＝
ナショナリスト政治家。政界黒幕として活躍し、名著「浄瑠璃素人講釈」を遺した。夢野久作の父。
福岡藩士杉山三郎平の長男に生まれる。

大政奉還・・・1867＝ 3歳：この年、父が藩校の修猷館助教となるも
明治維新・・・1868＝ 4歳：藩主に版籍奉還を直言した廉で謹慎を命ぜられて、

明治6年政変 1873＝ 9歳：
帰農在住を願い出て遠賀郡芦屋村に移り、同地で開いた家塾で学び、

三つの反乱・1876＝12歳：ルソーの「民約論」を読んで、政治に目覚める。

・・・・・・・1880＝16歳：政府の実状視察の目的で、はじめて上京、
明治14年政変1881＝17歳：山岡鉄舟の門人となり、
新体詩抄・・・1882＝18歳：ひとまず帰郷。

秩父事件・・・1884＝20歳：郷里を見限って熊本に赴き、済々黉を創立して子弟の教育にあたっていた佐々友房と会見、共鳴して上京。
伊藤博文の暗殺企てるも不在で失敗。朝鮮<甲申の変>に際、たまたま来日した宋乗峻から清国の現状などを聞き、やがて大陸に志向。

内閣発足・・・1885＝21歳：再び狙うも伊藤に論され断念。佐々友房らの紹介で、玄洋社創立者頭山満と会見、以後水魚の交わり。
帝国大学始・・・1886＝22歳：*機関紙(福陵新報)の創刊に参加。後藤新平の岳父安場保和に福岡県令就任方を懇請し、同県令により、門司築港、九州鉄道敷設、海軍封鎖炭山の開放など、北九州産業開発を実現させる。

初の対等条約1888＝24歳：以降、しばしば香港に赴き、
帝国憲法発布1889＝25歳：長男(後の夢野久作)が誕生。大隈重信外相襲撃事件に連座して投獄。香港との間で石炭貿易始める。
帝国議会始・・・1890＝26歳：頭山の紹介で荒尾精と親交を結んで、清国の知識を深め、

足尾鉍毒始・・・1891＝27歳：選挙干渉目的に船小屋温泉から壮士200人率いて柳川に入る。陸奥宗光に日清開戦の必要説き、
大本教・・・1892＝28歳：金子堅太郎に興業銀行の必要性を説く。
日清戦争始・・・1894＝30歳：*日清講和の際、全権伊藤博文に対し、戦捷の代償に遼東半島を領有するのは日本亡滅の基となると説き、さらに、松方正義・井上馨・山県有朋にも接近し、政界の黒幕として縦横に活躍する。
日清戦争終・・・1895＝31歳：初めて渡米し、工業事情を視察し、八幡製鉄所設立に貢献。

八幡製鉄始・・・1897＝33歳：再渡米し、J.P.モルガンと面会、外資導入を取付け、台湾に進出して製糖会社設立。日本興業銀行創立。
子規句歌革新1898＝34歳：台湾銀行設立、台湾縦断鉄道建設に関与する一方、5代鶴沢仲助の庇護始め、義太夫へ傾倒。桂太郎・児玉源太郎らと秘密結社を組織、日露戦争に備え、
Bushidou・・・1899＝35歳：台湾銀行設立、台湾縦断鉄道建設に関与する一方、5代鶴沢仲助の庇護始め、義太夫へ傾倒。桂太郎・児玉源太郎らと秘密結社を組織、日露戦争に備え、
ピアノ国産化・・・1900＝36歳：伊藤博文の立憲政友会創設資金を提供。

日露戦争終・・・1905＝41歳：児玉源太郎にロシアとの講和を進言し、南満州鉄道建設を立案、
満鉄発足・・・1906＝42歳：急逝した児玉源太郎のため児玉神社を建立。後藤の南満洲鉄道会社総裁就任につき働き、

伊藤博文暗殺1909＝45歳：
韓国併合・・・1910＝46歳：韓国併合に際し、李容九・宋乗峻の顧問として、首相桂太郎・陸相寺内正毅らとの間を斡旋。

明治天皇没・・・1912＝48歳：腸捻転で入院。

21ヶ条要求・・・1915＝51歳：印度独立運動の志士ビハリ=ボース来日の際は、その庇護に尽力。

ロシア革命・・・1917＝53歳：月刊政論誌{黒白}創刊。
本格政党内閣1918＝54歳：「児玉大将伝」出版。関門海底トンネルの必要性につき、政府各方面に請願し、
ベルサイユ条約・・・1919＝55歳：*{黒白}に「義太夫虎の巻」の連載を始める。

原敬首相暗殺1921＝57歳：

関東大震災・・・1923＝59歳：大震災で一時中断するも、まもなく復刊。
護憲三派圧勝1924＝60歳：「我が帝国政治向き全体御改革の儀」という建白書を提出、

円本時代始・・・1926＝62歳：連載をまとめた「浄瑠璃素人講釈」初版刊行。「百魔」。
金融恐慌・・・1927＝63歳：「義太夫虎の巻について」、
共産党事件・・・1928＝64歳：*この年まで、{黒白}130冊刊行。

満州事変・・・1931＝67歳：
五一五事件・・・1932＝68歳：風呂場で転倒負傷し、体力の衰え目立つ。

芥川直木賞始1935＝71歳：脳溢血で没した。遺言により、遺体解剖ののち、骨格標本が東大医学部に献じられた。
翌年、長男夢野久作も脳溢血で急逝。

岩波文庫「浄瑠璃素人講釈(下)」、福田和也「日本国怪物列伝」、平凡社百科事典、